

令和４年度幼稚園学校評価（出雲市立四絡幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	学年に応じて教育目標に基づいた学級経営案、指導計画、週案を立案し、保育実践に努めた。自然との触れ合いや地域の施設、文化とのかかわりなど今年度の幼児が興味関心をもったことや体験したことが遊びにつながるような保育の構想を考慮した。毎月、学期ごとに計画・実践からの成果と課題を捉え、分析評価し、次への構想につなげるようにした。	3	3	担任同士が互いの指導計画を基に保育の構想・指導・評価について学び合うようにする。リーダー的な職員をモデルにし、若手職員が学ぶ機会を重視する。園日よりや保育公開を通じて園の取組について周知する工夫を講じる。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	日頃から、保育や子どもについて語り合い、情報共有に努めることで、幼児の姿から育ちや課題を多面的に捉えるように努めた。必要に応じて各学級での話し合いを設け、会計年度職員も含めた学級内の職員で支援の方法を探り、発達課題に応じた援助につなげるようにした。保護者には、学期ごとの成長の記録「あゆみ」や個人懇談を通して情報共有し、成長を支えるように心がけた。	3	3	保育の実践記録や個人記録を継続し、幼児理解に努める。学級内の職員とも保育を語る時間を組み入れ、学級内の幼児について共通理解を図るようにする。さらに担任間で他学年との情報共有を行い、縦と横のつながりや連携を強める。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	専門機関(療育、市指導員、心理士)や保護者との支援会議を通して連携を図り、幼児の発達を支えた。 個別の指導計画や支援シートを基に学級内での支援の方法について共有し、学級の幼児が互いに育ち合えるような学級経営に努めた。 年中児から就学先の学校見学や情報提供を行うことで、安心して就学に向かえるようにつなげていった。	3	3	幼児の実態や課題、保護者の思いを把握し、支援を要する幼児を含め、すべての幼児が安心して園生活を楽しめるようにチームで支える保育を実践していく。 増えつつある支援を要する外国籍の幼児に対する就学に向けて関係機関との連携に努める。 また、一人一人の幼児のよさが生かされる集団作りや共に育ち合う保育について、保護者への理解を図っていく。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	一人一人に応じた幼児理解や家庭支援に努め、幼児が安心して園生活を過ごせるような指導に努めた。集団の中で互いのよさや違いを認め合える学級作りに努めると共に、個に応じた基本的生活習慣の形成に向けて家庭との連携を大切にした。幼児や保護者対応について話し合い、研修に参加したりすることで、自分自身の課題を見つめ、人権意識の向上に努めた。	3	3	人権・同和教育の視点を持ち、日頃の学級経営や保育実践に取り組む。会計年度任用職員も含め、身近な事例を話題に一緒に考えたり、保護者も巻き込んだ活動や研修会に取り組んだりして人権意識を高めていく。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	運動会、生活発表会、絵本展などコロナ禍でも幼児が育つ機会や体験は保障し、一人一人が輝ける場として遊びや体験を繋げ、テーマをもって工夫して取り組んだ。幼児が主体的に取り組む、行事に向かう活動を通して喜びや自信、達成感を感じることができるよう内容を工夫し、指導計画を基に見通しをもって取り組んだ。 中止や縮小したものもあったが、保護者アンケートの評価から保護者の理解、協力を得ることができたと感じている。	4	4	今年度の反省(工夫と課題)を基に、来年度のもち方、内容を検討する。幼児期に必要な体験の機会となるように、今後も長期の指導計画を基に見通しをもった構想や実践に努め、一人一人の幼児の育ちや学びにつながるように配慮する。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	就学予定先3校との連絡会への参加や情報提供を行い、連携に努めた。 今年度は、校区内の小中学校と子ども同士の交流が実現し、遊びを通してかわかることで、就学への期待と憧れが高まるきっかけとなった。	3	3	校区内の小学校、保育所と情報共有しながら、連携、交流の在り方を探っていく。 アプローチカリキュラムの見直しを図り、来年度へ活かしていく。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	全保護者が一人一役を担い、運動会、誕生会への参加や清掃活動への協力、交通安全教室の実施など協力を得ることができた。朝夕の預かり保育が始まり、就労する保護者が増えたため、今後保護者参加の活動方法を工夫する必要がある。 地域との連携については、地域の外部講師による指導や地域への園外保育、施設利用などを保育に繋げることができた。また未就園児教室はコロナ禍において、遊びの提供や未就園児親子の交流の場としての役割を果たすことができた。	3	3	地域の人や自然、文化とのふれあいがもてるような活動や保育の計画、実践に努める。コミュニティセンターや近隣の施設との連携を図り、地域のよさを有効的に活用できるよう研修する。また、保護者が来園する機会が減っているので、保育について理解してもらう手立てを一層工夫する必要がある。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	市幼児教育指導員から幼児の発達に応じた環境の構成や教師の指導性について指導を受けた。「わくわくマップ」を基に幼児の興味関心の変容を捉えたり、幼児と共に遊びの振り返りに用いたりすることで保育の構想や援助、環境の構成に役立てた。 市幼研の研究会、各種研修会にも積極的に出かけ、職員会で伝達研修をしたり、web開催の研修会に複数の職員が参加したりして研修の機会を広げた。経験や雇用形態の異なる職員が多く、今後も研修のもち方が課題である。	3	3	園内研修を通して園全体としての保育の充実を図るように努める。また、ビデオやツールなど用いた事例の検証や全職員が参加しやすく互いに学び合えるような機会や内容を検討していく。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	園務分掌を基に職員会で起案し、早めの計画実行に心がけた。実行後は成果と課題をまとめ、振り返ったり、全職員で回覧したりして、来年度に向けての改善を図った。職員が少ない中で運営が厳しい状況にあったが、協力的に業務を遂行することができた。	3	3	引き続き、計画的な執行に努める。行事の見直しや会議の方法を見直し、業務の削減や効率化を検討する。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	新型コロナウイルス感染症対策について基本的な感染対策の徹底、遊具等の消毒、職員園児共に毎日の健康チェック表提出、登園時給食前の検温実施など、衛生管理を行った。 危機管理マニュアルを基に各種災害を想定した避難訓練を実施し、対応や役割を確認した。(水害時の訓練、引き渡し訓練)また、怪我の対応について記録分析を行い、事故防止対策に努めた。	4	4	今後も感染症の対策などの情報収集に努め、全職員で共通理解を図り、危機管理意識を高めていく。ヒヤリハットシートへの記録分析を基に事故防止に努める。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	日常の安全点検に基づき速やかに修繕を行うと共に、必要に応じて市の担当各課と連携し、環境整備や改善に努めた。(園児用トイレ、園舎建具修繕、総合遊具改修など)老朽化による園舎の改修を年次的に行う必要がある。(園舎屋根の雨漏り改修中)	3	3	日常の安全点検に努め、改善・管理を継続する。市との連携を図り、環境整備に努めていく。

※評価基準　４：十分達成している　３：概ね達成している　２：改善を要する部分がある　１：大いに改善を要する